

# 令和三年度定時総会開催

事務局長 皿田 浩

去る六月十八日午後六時より町並み資料館において定時総会を開催した。昨年は新型コロナウイルスの感染防止を考慮して書面決議をしたので二年ぶりの総会である。出席十二名、委任状数十九通の合計三十一名で会員総数五十名の過半数を超えており総会の成立を冒頭に報告。

木阪会長の挨拶に引き続き、守田氏の後任として新相談役に就任された村谷浩司氏が紹介された。恒例により木阪会長が議長となり議事に入ったがツバメが一羽議場に飛び込んで参加者一同びっくりする。一号議案である令和二年年度の行事報告ではコロナ禍の中、松島詩子の名曲を歌う会と金魚ちようちん祭り時のしらかべかき氷店の出店が中止となったが七夕祭、八朔の船流し、火伏地藏祭、年末の夜回り、おひな様巡りはなんとか感染防止策を工夫して実施することが出来た。視察旅行の代替えとして弘前市との交流事業を継続した。

## 第八十七号

柳井市白壁の町並みを  
守る会  
事務局(皿田浩)  
TEL 090-1012-4204

関連があるので続いて二号議案である会計報告が皿田事務局から、監査報告が岸井監査からあり拍手により承認された。コロナ禍で支出金額が減少したものの金魚ちようちん祭り中止でかき氷屋の収入がゼロとなり次期繰越金の減額となった。金魚ちようちんの作成指導に弘前に出張していただいた河本会員が謝金を全額当会の収入にご寄付いただいたことはまことに有難かった。

三号議案である令和三年度の事業計画案はほぼ前年通りであるが特記事項として各種助成金の模索と活用、柳井市観光協会が主催する金魚ちようちん祭り三十周年記念「令和のきんぎょちようちんデザインコンテスト」への協賛が書き加えられた。

弘前との交流についてはコロナの蔓延状況が見通せないで現時点では未定とした。桑原会員より金魚ちようちんの新たな活用方法や新企画の必要性が主張された。二年前の弘前との交流では弘前の子供たちが「LEDで点灯した金魚ちようちんを手で持つて行列行進し好評だったので当会でも一昨年および昨年の年末夜回りの際には従来のロウソクを「LED」に変えた金魚ちようちんを子供たちに手に持つてもらって夜回りを実施。柳井の金魚ちようちんも元はと云えばお盆の時にご先祖様の霊を家に迎える「迎えちようちん」として使用されていたと聞いているので手で持つて行列する方法は是非とも復活させるべきではないであろうか。

また金魚ちようちんの手ぬぐいを作成しバンドナのように鉢巻をして子供たちに行列行進してもらおうアイデア等も出された。活発な意見が相次ぎ予定した時間を大幅に超過し拍手にて今年の行事計画案は承認された。その他の活動として「やないろ」の中本会員より実施されている「子供食堂」についてこの一年間に回数四十三回、のべ千五百人の参加があったとの活動報告があった。最後に柳井市の山本直邦顧問よりご挨拶をいただいた。散会前に迷い込んだツバメを追い出そうと必死に努めるも叶わず後は警備会社に任せることと相成ったのである。



# 幻の聖火リレーに思う

木阪泰之

二〇二一年五月十日(月)は、山口県聖火リレーの初日(五月二三日)開催中止という現実を突きつけられた大変ショックな日となりました。

本来この欄には、柳井市白壁の町並みにおける聖火リレーの様様を詳細に記録として残し、併せて聖火ランナーとしてこの町並みを走行された方の寄稿文を掲載する予定でした。今回、山口県の聖火ランナーとして柳井より六人が選ばれておりましたが内五名が初日組で走行叶わず。二日目に縁もゆかりもない山陽小野田市を走る事に決まっていた私だけが唯一走る事を許されたという結果となり、実に人生というのは皮肉なものであり、今でも心底喜ぶことなど出来ずとも申し訳ない気持ちでおります。あれから一ヶ月以上経過した訳ですが、

私はたまに夢を見ることがあります。もしも予定通り開催されていた時の市内の、特に白壁の町並みでの大盛り上がりシーンです。聖火リレーに関しては私も当事者です。それなりに事前情報収集に努めておりました。現実私の予想の何倍、いや十倍もの警備、運営、規模、人員であったことと大変驚きました。

テレビの映像等ですと、ランナーの周辺に警護走者が取り囲み後方に大きな車両が続いている程度のイメージですが、実際は：例えて言うとう、ドイツニーランドの巨大

パレード”と、大名行列の参勤交代”をミックスした位、超ド級規模のものだったからです。走者の前後には大型を含む二十台以上の車両が連なり、特にメインスポンサー四社の各車両にはチアリーダーディングの皆さん、DJの皆さんがランナーや通りの皆さんを盛り上げるのです。

柳井市役所をスタートし、駅前通りから白壁の町並みへ：そして柳井小学校へゴール：特に白壁の町並みはぎゅうぎゅう詰めで大変な盛り上がりになっていた筈です。恐らく孫子の代まで語り継がれる光景だったでしょう。しかし残念ながらすべてが幻となってしまうました。只ハングリいな気持ちだけが残った：これが現実です。然しながら、この空腹感こそが次のエネルギーを生み出す源と信じております。次代に繋ぐ山口県チャレンジャーとしての活動はまだ始まったばかりと肝に銘じております。引き続き、白壁町並みの活性化へのご協力、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(追記)

その後、二〇二一年六月二十七日(日)に代替イベントが山口市内で開催されました。山口県聖火ランナーで当日(5/13)走行できなかった皆さんが集いユニフォームを着てトーチキスをするものでした。本当に良かったです。後ろめたい気持ち、が少しですが軽減されたような気がします。木阪賞文堂白壁店に飾ってあるトーチはもう少し目立つところ飾り、状況に応じて白壁の町並みに運ばれた地元の皆様や観光客の方々に手に取っていただき、写真撮影等に使用してもら

えたらとも思います。



トーチキスは前後の走者の方をお願いして山口県の…柳井市のY、を、一緒にかたち作っていただきました。

1P総会議事より

## 第3号議案の今年度行事及びイベント

- 第10回 松島詩子の名曲を歌う会 未定
- 第21回七夕祭 6月30日(水)~8日(木) 済
- 金魚ちょうちん祭協賛 8月13日(木) 中止決定
- 第22回八潮の船流し 8月23日(月)
- (以下の行事はコロナの蔓延状況で中止する場合あり)
- 愛宕大権現火伏地藏 祭り8月24日(火)
- 8時 清掃奉仕 18時 祭り
- 白壁マラソン大会沿道応援 11月中~下旬
- 第23回年末夜回り 12月28日(火)&29日(水)
- 第22回おひなさま祭 3月中旬
- (ウォークラリー、やない花・香・遊協賛)
- (おひなさま巡り：2月上旬~3月下旬)

# 第二十一回七夕まつり開催

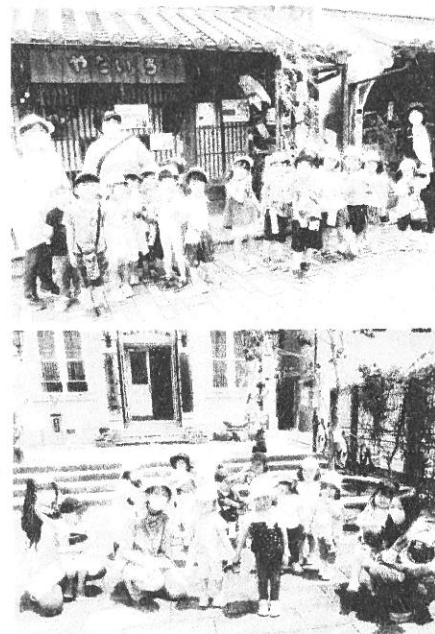
## コロナよ早く飛んで行け

今年もやって来ました。第二十一回目となる七夕の伝統行事。真っ白な白壁通りの民家の軒先が二十本の色鮮やかな七夕飾りで彩られました。期間は七月一日から七日までの一週間。男性軍は六月三十日午後一時尾林呉服店の駐車場に集合。竹の伐採地を今年はその所有林から民間の竹林に変更。四方所のロケーションハンティングをした結果、市民活動センターの仲介で藤本正明氏が管理を委託されている場所に決定。これまでの孟宗竹とは違う真竹なので伐採の作業がとても簡単になったのであります。後続車が道に迷って右往左往する間に予備を含んで二十四本の竹をあとと云う間に伐採終了。飾り付け担当の女性軍が待つ木阪賞文堂車庫に取って引き返したのであります。短冊と笹飾りは市内の七つの幼稚園、保育園(所)の園児たちの作品だ。いつものことだが子供たちの願ひ事には思わず笑ってしまうものが多い。どんな願ひごとをしたのかな? ちよと覗いてみましょう。「だいたすきなチョコがほしいです」「おおきくなったらプリンセスになりたいです」正直でよろしい。しかしやらない方が良くなりますように。「はみがきがじょうずになれますように」「びょういんのせんせいになりたい」「あしがはやくなりたい」「かんじがかけますように」「しっかりと頑張つて努力するんだね。きつと君はなれるよ。」

「ころながおさまつておばあちゃんたちにあえますように。」「ひいおばあちゃんのはやくげんきになりますように。あそびたいです」子供なりにコロナのことが心配なんだな。「はっぴょうかいがなびります」「たいこをがんばります」その調子。頑張れよ。「うちゅうにいきたいです」「ながればしとあそべますように」大きな夢ついでいね。たった三本の七夕から短冊の願ひ事を紹介したが下手くそな文章を書くよりよっぽど面白くないですか。ひらがなばかりでさぞかしお疲れでしょう。どうか子供たちに免じてお許し下さい。

当日集まったボランティアは男性十四名女性十一名

の総勢二十五名。昨年の十九名から大幅に人数が増え喜ばしい限りだ。以下に団体名を記し謝意を表したい。(敬称略) 柳井市役所生涯学習スポーツ推進課、同都市計画建築課、同商工観光課、柳井商工会議所、中央商店街振興組合、柳井縞の会、自遊俱樂部



柳美幼稚園のお友達

放光保育園のお友達

## やないしらかべ子ども食堂

白壁の町並みを子ども達の笑顔が広がる地域の居場所にしたい。

「少子高齢化」地域では急速に進む顕著な課題です。柳井市もまさにその課題の真つただ中。地域から子ども達や若者を中心とした賑わいが減少しています。そんな中でも思い出に残る1ページを子ども達に刻んでほしい。

その舞台を柳井市の白壁の町並みで!

観光地である前に、地域の人たちのコミュニティの拠点としたく、令和元年6月に、飲食店「やないしら」を夫婦2人で開業しました。地域の方々の温かい応援の中、地元食材を中心としたランチ、以前茜工房さんが提供していた甘露醬油ソフトクリームをオリジナルのカタチで復活をしました。少しずつ地域のお母さん達と繋がりを広げ、手作り雑貨特設コーナーを設置。ワークショップの開催など、子育て中の方を意識したお店作り、地

域に根ざしたお店と成長しました。

この地域の子ども達に寄り添い、楽しいだけを共有するのはなく、抱えている課題の解決にも取り組むたいと考へ始めたのが、子ども食堂です。飲食店の立場として出来る事は温かい手作りの食事を提供すること。お友達同士・家族で楽しむ事もあれば、子ども食堂を通じて出会った子ども同士が遊んでいる姿を見れるのも子ども食堂の特徴です。

食材の提供者さん、配膳・片づけのボランティアさん、たくさんの方のご協力で、令和2年度は子ども食堂の開催は43回、学校の宿題の分ならなかった所をそのままにしない! 勉強嫌いなならないサポートをする寺子屋、お味噌作りやロボットの工作、地域の方に講師をして頂き楽しい講座をする体験教室なども定期的に開催し、全てにおいて関わった人数は1500人。これは1500人が白壁の町並みを訪れた数字として確かなものです。

子ども食堂は利用する子ども達、支える大人たち全てが主体者です。

白壁の町並みを生活の拠点として改めて肌で感じ、金魚ちょうちんが気持ちよく泳いでいる姿が全ての人の思い出となれば嬉しい限りです。

### 【やないしらかべ子ども食堂】

毎週日曜日 午前9時〜11時

(最終受付10時30分)

定員30名 料金、高校生以下100円

### 【やない寺子屋】

第2・4日曜日 午前9時〜11時。

定員6名 料金、100円

### 【体験教室】随時開催

主催・やないしらかべ「絆」ねっとわーく

会長中本瑞穂

TEL 080・331・0655

一緒に楽しい時間を共有したい仲間を大募集中! 無理をせず等身大で出来る事を楽しくやりましょう!

# 柳井の地図総図

岸田稔明

## 第三十回 柳井町市街図(大正十五年)

### その2(山口県文書館蔵)

前回、大正十五(一九二六)年に柳井町役場が発行した『柳井町市街図』を紹介しているが、何回かに分けてその詳細をみていきたい。今回は古市、金屋地区を中心に紹介する。

この地図では、金屋地区は「本町」と記載されている。柳井津駅(現在の柳井駅)から柳井川に架かる本橋を経て本町までの道路は開通しているが、その先の道路はまだ開通していない。突き当たりには山口銀行の前身、「百十銀行柳井支店」がある(図中の記号「ツ」)。現在の町並み資料館である。直線の道路が現在の国森家住宅から柳井尋常高等小学校(現在の柳井小学校、図中の記号「ソ」)に向けてできている。この道路沿いの東側に佐川醬油蔵がつくられている。



柳井尋常高等小学校は明治三十八(一九〇五)年に現

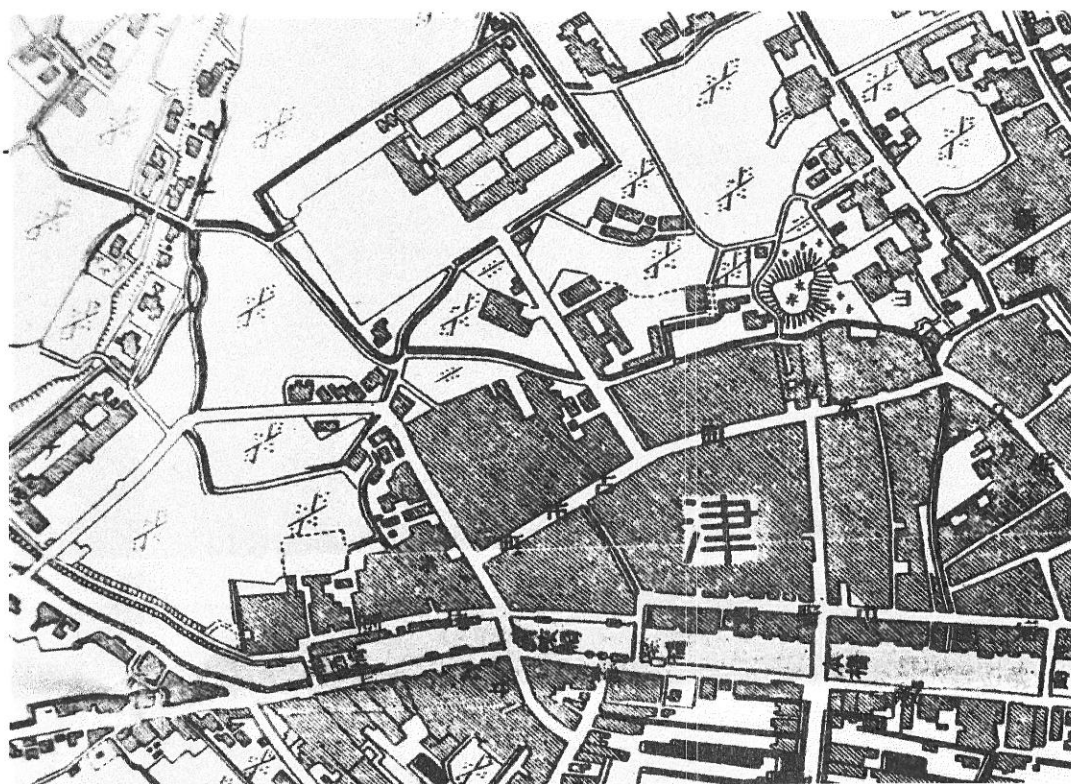
在地へ移転が完了しているが、現在の柳井小学校の校地より狭く、現在の校地の北半分は田(「ネ」の記号は田を表す)であった。大正十五(一九二六)年当時の児童数は、尋常科と高等科の合計で千四百九十四人であった。小学校から現在の体育館へ続く道は狭く、あぜ道であった。

図の左端には、「柳井高等女学校」がある(図中の記号「ナ」)。明治四十(一九〇七)年に設立され、明治四十三(一九一〇)年に柳井高等小学校の校地、後者を譲り受けて移転したものである。現在の市文化福祉会館付近にあたる。そして、宝来橋から白壁の町並み西入口を経てアクトイブやないへ向かう狭い道は、女学校の通学路であった。女学校の南側、現在の文化福祉会館駐車場や市体育館駐車場のあたりは田が広がっていた。

柳西橋は現在よりも宝来橋寄りであった。そして、宝来橋と柳西橋との間は、地名として「片側」と記してある。その通りと柳井川の間には、川に張り出して家が建ち並んでいた。柳井川とその南側の道路との間にも、川に張り出した建物があった。現在の柳西橋から白壁まちかど広場南入口を経て白壁の町並

み西入口までの間の道路はなく、白壁の町並み西入口交差点の付近には、「柳井信用組合」があった(図中の記号「ネ」)。明治四十一(一九〇八)年に設立され、地方経済の緩和を図り、傍ら購買販売を兼業していたという。

【柳井町市街図(柳井町役場発行、山口県文書館蔵)】



# 商都柳井の歴史 その十七

松島 幸夫

## 柳井津の経済発展(六)

### 相模から移住した皿田家

多人数の旅費を要する参勤交代や幕府からの普請(公共工事)命令によって出費が多く、江戸時代の藩は、どこも財政が火の車でした。多額の借金を抱えるに至った萩の毛利家が、経済力豊かな柳井津町を、吉川家の領地にしたことを、後で悔やんだことがありました。

多くの柳井津の商人が大船を持ち、日本海沿岸や九州で原料を仕入れ、自家の作業場や周辺の農家で加工を行い、商品を大坂などの消費地で売り捌いて大財を得ていたのです。ほとんどの地域が米づくりを基本にして自給自足に甘んじていた江戸時代において、柳井津は先進的な経済構造でした。



資本主義的経済を先取りしていたのです。柳井津には、あらゆる物資が集まったので「岩国藩の御納戸」と称されました。

御納戸とは、食料・食器・衣類・調度品などを収納するスペースを言います。柳井津に行けば、他の地域との交流が盛んで、何でも手に入れることができたのです。

商品生産の体制を整え、自家の回船で製品を大消費地に送り、売り捌いて大財を得た豪商の姿を、小田家や国森家を例に見ましたが、今回からは5回にわたって、古市で酒造業を営んだ皿田家について紹介をします。他家のことを当事者でない私が紹介することは気が引けますが、自家の記述を遠慮されることが多く、あえて私がさせてもらいます。

「祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらわす」の通り、柳井津の豪商とて、「かつ消えかつ結びて、久しくとどまるためしなし」です。新陳代謝が、あつたのです。

柳井津には、すでに室町時代、將軍や貴族を泊めるに相応しい豪邸を構える分限者がおりました。しかし、江戸時代になると、彼らは姿を消してしまいます。新興勢力にとって替わられるのです。商売をしたことのない者が、柳井津に進出し、才知と努力によって這い上がって成功し、財力を手にしたのです。

我々がよく知る小田家や国森家は、もともと新庄村で農業を営んでいました。やがて柳井津に進出し、岩国吉川に多額の献金をするほどの豪商になりました。

皿田家の場合も同様です。もとは古開作村で稲作をする農家でしたが、柳井津町に出て来て商いを始めたのです。

「友千鳥」の記述によってその先祖を辿れば、もともとは相模国(神奈川県)の住人で、佐良田姓でした。やがて戦国時代に、柳井津近郊の余田村に移り住みます。移住の経緯については記載がなく、定かではありませんが、次のように推察できます。佐良田家は相模で稲作を行い、時に戦鬪に駆り出される典型的な家庭だったのでしよう。室町幕府の権威は不安定で、京都を中心に戦鬪が繰り返されました。

佐良田家にも動員がかかり、徴兵されて京都辺りで参戦させられました。その際に、大内氏の配下に属することになったと察せられます。大内氏は度々大軍をもって上京し、政局を左右しています。大内義弘が將軍足利義満と激突した応永の合戦、大内正弘の応仁の乱への参戦、大内義興の京都船岡山合戦などでの大勝利が有名です。それ



(初代 皿田治兵衛氏肖像)

らの合戦に際して、大内氏の力を見せつけられ、傘下に入ったのでしよう。

大内氏に従い周防に入ってから佐良田家の経緯は、次回に紹介します。

# 資料館便り

## 『ご縁をつなぐ』

副会長 山近絹代

お鐘金魚が町並み資料館にやって来て、早や九年。今まで広島からのお客様が多い分、お鐘金魚さんの幸運の報告も、広島の方が断トツに多かった。しかし昨今のコロナ禍で山口県内や柳井市内のお客様が増えた分、幸運の報告も近隣の方からの分が先日連続しています。お鐘金魚の体内にお金が残った方に「平素よりご好運なのではないですか？」と声を掛けると、「お陰様で。」と答えられる方の割合が九割なのは以前と変わりが無いのが、おもしろい！ 四月中旬のこと「富士銀行はどこにありましたか？」と尋ねてこられたお客様がいっぱいありました。お客様の納骨の前に、遺骨をもって思い出の地を回っているという豊田市からのお客様でした。お客様がその昔、この地で富士銀行にお勤めされていたとのこと。いろいろと話していると、叔父さんが山口銀行にお勤めされていたこと。お勤めしていた時期が、私が支店にいた時と同じと分かり、話が盛り上がり、とても喜んでくださいました。他にも葉山町や東京からルーツ探しに来られた人のルーツが私と一緒にピンゴ。これもご縁だ！ ニューヨークから来られたお客様とは、私もニューヨークに行つたことがあり、知人がスタテンアイランドに住んでいることを伝えると、何となくとのお客様も同じ地域に住まいで、これ以上ない程、体全体で喜びを表現されて、写真をパチパチ。ミネソタから来られ、これから青森に観光に訪れようとしている方が、偶然ここで青森の学芸員の方と居合わせたりとインターナショナルなご縁が。松島詩子さんが東京で住んでおられた小平市来られた方が、「引き込まれるように入った。」と今までにも多くの方が言われていたが、

つい先日だが、広島からの方が、二階の松島詩子記念館へ上がられ、降りてきて、「松島詩子さん、小平に住んでおられたんですね。私、東京出身で小平にも住んだことがあるんですよ。呼ばれるように二階に上がりました。」と話された。詩子さんパワー！ 旅行サイトの口コミに「町並み資料館で予備知識を仕入れて回ると見学がスムーズにできる。」とか「町並み案内もしてくれるので、町の様子が分かり良かったです。」等投稿されているが、帰りに寄られて「先に来ればよかったです。」と言われた方は数知れず。先日は湘江庵に行かれた後に来られた若い女性に、虚空蔵菩薩が丑と寅年生まれの守り本尊の話したら「行かなきゃ！」と走って再び湘江庵へGO！寅年の方だった。昔銀行で「お金」と「ご縁」を運んでいたこの場所。「来て良かった。」「話せて良かった。」と今までも言っていたが、これからもより多くの人が集い、出会いも増えて、もっと幸運をお届けできるスポットとして、ご縁をつないでいけよう！



### 今期新入会員からの

#### メッセージ

白壁の町並みを守る会 相談役 村谷浩司

柳井市教育委員会 生涯学習・スポーツ推進課 主査

4月1日から教育委員会生涯学習・スポーツ推進課の文化財担当になりました。その役目柄、力不足ではありますが柳井市白壁の町並みを守る会の相談役に就任させていただくことになりました。これまで市役所では、選挙管理委員会、戸籍・住民票情報管理の担当などをしてきました。しかし、教育委員会は初めての勤務でまだまだとまどっている状態です。

文化財の担当になって分かったのですが、文化財には建造物、美術工芸品などの有形文化財、演劇、音楽などの無形文化財、民俗文化財、記念物、伝統的建造物群、埋蔵文化財等たくさんの種類があることを知りました。柳井市にも多くの文化財がありま

すが、その中でも「白壁の町並み」は、ポスター写真に使われることも多くとても重要なものと考えています。

先日、宮島の町並みが重要伝統的建造物群保存地区への答申があったと報道がなされていました。これで全国の重伝建地区は126地区となるようです。その中で3番目に面積の小さい地区ですが、コンパクトでまとまっていると評価を受けおり、私も町並みの保存・活用に取り組み意欲がききたてられています。

まだまだ、不慣れな点も多く、至らないところも多々あるかと思いますが、皆さんと一緒に「白壁の町並みを守る会」のお役に立てるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【編集後記】

★国森前編集長が勇退されてから初めての編集後記である。何から聞き始めてよいのか正直迷ってしまう。ここはやはり世の中を騒がせている話題から入るとしよう。オリンピックは東京および隣接の3県では無観客となることになったようだ。どうして土壇場まで決断できなかったのか？多くの国民が釈然としない思いを抱いているのではないだろうか。

★コロナワクチンの接種方法について多くのお年寄りから予約を取るのが大変だったとの話を聞いた。ネットで予約すると意外と簡単なようだが我々の年代ではパソコンを持っていなかったり一人住まいで手助けを頼める子や孫が近くにいない場合はお手上げだ。まず最初に接種が必要な年代層にたいする配慮の無さ、接種プログラムの設計の杜撰さを感じざるを得ない。コンピュータを使える人・使えない人の格差が生まれている。

★今年の七夕まつりも雨の日が多かったが台風の接近がなかったので助かった。万一接近してきたら一時的に撤去避難させなければならいからだ。7月7日の七夕の日には外国人の親子づれが4組(おかあさんと娘たち)やってきて用意しておいた短冊に熱心に願いごとを書いていた。

日本の伝統行事を守ることの大切さを改めて感じた。

(事務局 皿田)